

## 茨木工業

幅広く供給

「繊維強化プラスチック（FRP）」のことなら何でも任せて」と、茨木工業社長の豊留永久は自信を見せる。「FRP製品は中の繊維によって製造元が分かれている」とが多いが、うち



## 航空機分野参入で羽ばたく

中堅・中小・ベンチャー

1

はガラスとカーボンのどちらも対応できる」のが理由だ。「FRPを総合コンサルティングできるのが当社の最大の強み」という。船舶部品や鉄道車両部品、産業用ロボットのアイムなど、同社のFRP製品の供給分野は幅広い。手作業によるウェットレイアップと装置を用いたオートクレープの加工方法も使い分ける。用途に応じたさまざまな製品を生み出している。

## 繊維強化プラ全般に自信



高い意識

あらゆる分野のFRP製品を手掛けてきた同社が、現在視野に入れているのが

きたい考えだ。年内に「JISQ9100」を取得見込みであるのに加え、2011年には国際特殊工程認証システム「Nadaca」

「航空機産業参入に向けて取り組むことで、社内全体の空気が変わった」と豊留は語る。航空機産業は、工程管理や品質の安定が徹底して求められる分野。参入に必要な認証を取得するために、小さな問題を見

落とさずに改善することが重要だ。その高い意識は、従来の業務にも生かされている。「もっと効率よくで

オートクレープの成形作業の成り立ちを、受注に向けて準備を整えている。すでに治工場で大手メーカーの取引口座を獲得し、部品についても引き合いが来るようになった。

「航空機産業参入に向けて取り組むことで、社内全体の空気が変わった」と豊留は語る。航空機産業は、工程管理や品質の安定が徹底して求められる分野。参入に必要な認証を取得するために、小さな問題を見

落とさずに改善することが重要だ。その高い意識は、従来の業務にも生かされている。「もっと効率よくで

落とさずに改善することが重要だ。その高い意識は、従来の業務にも生かされている。「もっと効率よくで

きないか」「どうすればよくなった。10年に入ってからでは、ウェットレイアップとオートクレープに続く第3の製造法として、熱可塑性樹脂を使用したFRPのプレス成形の研究に取り組んでいる。航空機部品をはじめ、自動車部品やスポーツ用具などの量産に対応できる。新分野開拓を機に、茨木工業は大きく羽ばたく」としている。

(敬称略)

▽社長 豊留永久氏▽所在地 大阪府茨木市野々宮2の11の6、072-6324801▽従業員 46人▽資本金 1000万円▽売上高 5億円(11年3月期見込み)▽URL www.w-ftp-haraki.co.jp